ほっとほっとタイムズ－第３号－

2025.7.7

井荻小学校　特別支援教育校内委員会
教育アドバイザー住谷陽子

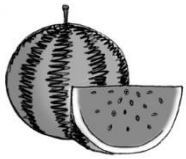
暑い毎日が続きます。お元気でお過ごしですか？

1学期もそろそろ終わりを迎え、それぞれの学年でまとめの保護者会が開かれています。皆様にとって、どんな1学期でしたか。成長したこともあれば、課題も見つかったりしたのではないでしょうか。

学校は集団生活の場、成長の場ですから、うまくいかないことやトラブルが起きるのも日常茶飯事です。大人からすると、当たり前ですがトラブルはないほうがよい。しかし、子どもにとってはどうでしょうか。子ども達はよいことも悪いことも経験しながら学んでいきます。正しいことを頭で学ぶこともちろん大事ですが、楽しいことも嫌なことも自分が実際に経験することで、実感を伴って学ぶことができます。昔から「小さいけがで大きなけがを防ぐ」と言われてきたことです。大事なことは、失敗しないことではなく、失敗した嫌な気持ちをしっかり受け止め、何がいけなかったのか、次どうすればよいのかをしっかり学んで繰り返さない自分になれることです。

先日、中学の先生と話し合う機会がありました。その時の中学の先生の言葉です。「中学は出口から逆算して指導を考えます。中学を卒業するときには、進学するにしろ就職するにしろ、社会人として通用する人間にしなければならないのです。」なかなか難しいことではありますが、それが現実だと思います。小学校の場合は子どもの実情に合わせないと日々が成り立たないので、どちらかというと「入り口からのスタート」ということになります。入り口の状況―つまり、入学してくる一年生の状況はどうかというと、社会性という面では、年々幼くなっていると感じています。自分の思いを言葉でうまく表現できないで固まってしまう、思い通りにならない感情をうまく処理できない、人の話をきちんと聞けない、一緒に遊びたくても自分から声をかけられない、わからなくても自分から聞けない、人の前で自分の弱さを見せたくない・・・。コロナで集団生活ができなかった影響もあるでしょう。地域でのつながりが薄まって、人とのかかわりが減ったことがあるかもしれません。原因はいろいろ考えられますが、育ちにくくなっていることは事実です。実態と求められるものとのギャップに焦りを感じてしまいますが、子どもは急には育ちません。

うまく表現できないわが子を見ると、親が代わりに何とかしてやらなければという気持ちになるのもわからないではありません。しかし、子どもができないことを親が肩代わりし続けたらどうなるでしょう。いつまでたっても、子どもが解決の主体者にはなれません。手間暇かかるけれど、子どもを前面に出し、大人が後ろから励ましながら、子どもに一つずつ力をつけるしかないのです。先日の道徳地区公開講座の話し合いの報告にも、「しつけは、基本的なことは家庭で、学校は実践の場と考えましょう」というようなことが書いてありました。うまく実践できてないなと思われるときは、教師と保護者で協力して育てていきましょう。うまくできなくても、頑張っているところを見つけてそれを言葉にして認める言葉かけをすることで、子どもたちの自己肯定感は育っていきます。

「社会人として通用する人間性」とは何でしょう。時間を守る、忘れ物をしない、身の回りの整理整頓、人を傷付ける言葉を言わない、きちんと言葉で受け答えする、人の話は誠意をもって聞く・・・。数えあげるときりがありません。ただ、言えることは、社会人となった時求められるのは、テストの100点でも、運動能力でもなく、まずは人間性だということです。社会性は一朝一夕では育ちません。細かいところから励まし、認めながら、子ども達に力を付けてやりたいものです。これから長い夏休みに入ります。親子で関わる絶好のチャンスです。親子でたくさん会話をし、実り多い夏休みとなることを願っています。

７月８日、中学年の保護者会の後、４時～５時、ほっとほっとティータイムを企画しています。みんなで楽しくおしゃべりしましょう。皆様の参加をお待ちしています。